

症例 カンファレンス

生検が予定された 小児前縦隔腫瘍

前縦隔腫瘍の生検の麻酔を担当することになった。CT
を見てみると、心臓の前いっぱい広がる固形物。気管
や大血管の圧迫も疑われる。しかし本人は割と元気で、
普段の生活に支障はない。普通に麻酔できだろうと判
断した。

手術当日。通常どおりに導入を進めたその瞬間、換気
は困難になり、SpO₂は低下。挿管は成功したものの換
気はできず、緊急に ECMO が必要な事態に…。大丈夫
だと思っていたどこにも相談していなかった…。症状の

軽さに油断してしまった…。

前縦隔腫瘍の麻酔は、ほんの小さな判断の差で、命に
直結する危険が潜んでいる。今月の症例カンファレンス
では、気管を圧迫する小児前縦隔腫瘍に対する生検術を
テーマに、麻酔方法の選択、ECMO の準備範囲など、
施設ごとの対応の違いを考える。大学病院、市中病院、
小児病院、それぞれの対応を比較しながら、麻酔方法や
どこまで事前準備を行うかなどを一緒に見ていきましょ
う。

新潟大学医歯学総合病院 麻酔科 渡部 達範

スミベタ
+
スミ 20%

指定外

16a ロダンH

↓
(30)H

症例提示 1038

キーポイント解説 1039

PLAN1 : 高リスクに対する局所麻酔中心のアプローチ 1041

PLAN2 : 1044

PLAN3 : 左側臥位でレミマゾラムによる鎮静と局所麻酔による生検術を施行 1047

本症例における周術期管理の実際 1050

8a 見成ゴ MB 31
(5w分)

12a
見成ゴ MB 31